

# 22O-am01S

## 補中益気湯が活性化する内在性制御性 T 細胞について

○柘植 厚志<sup>1</sup>, 武藤 悟史<sup>1</sup>, 矢倉 唯<sup>1</sup>, 日坂 真輔<sup>1</sup>, 能勢 充彦<sup>1</sup> (名城大薬)

【目的】われわれは、臨床でアトピー性皮膚炎の治療に用いられている漢方方剤の作用機序について、「補剤」が示す制御性 T 細胞 (Treg) を介した抗アレルギー作用に注目し、その詳細を分子レベルで理解することを目的に解析を行っている。これまでに、マウス接触性皮膚炎モデルにおいて、十全大補湯は複数の誘導型制御性 T 細胞 (iTreg) を介した抗アレルギー作用を示し、補中益気湯 (HET) は iTreg 以外に内在性制御性 T 細胞 (nTreg) の活性化を介して作用を示すことを報告した。今回、HET の nTreg 活性化作用に注目し、抗原特異性や有効生薬、さらに nTreg の数量的変化に及ぼす影響について検討したので報告する。

【方法】実験動物として、雌性 BALB/c マウス (6~7 週齢) を用いた。HET および構成生薬のエキスはそれぞれ常法に則って作製し、凍結乾燥して用いた。抗原特異性については、抗原として TNCB と oxazolone を用いた養子移入実験にて検証した。nTreg の数量的変化はフローサイトメトリー法を用いて検討した。

【結果および考察】異なるハプテンを用いた養子移入法の結果、HET は iTreg 以外に nTreg を活性化することが確認された。HET を 7 日間経口投与したマウスの脾臓における nTreg の組成を解析したところ、水を投与した対照群に比べて増加していることが明らかとなった。また、構成生薬のうち、nTreg の活性化は柴胡が担っていることが明らかとなった。今後は、柴胡中の活性成分の同定とそれらが経口投与後どのように nTreg の数量的変化ならびに活性化を引き起こすのかを明らかにしていきたい。